

新除草・調節剤

アフアロン

リ ニ ュ ロ ン 水 和 剤

アフアロン普及会
ヘキスト・ジャパン(事務局)
日本農薬株式会社
日産化学工業株式会社
イハラ農薬株式会社

成分、作用特性：本剤は、有効成分N-(3,4-ジクロロフェニル)-N'-メチル尿素50%を含む水和剤である。本剤は、雑草の莖葉や根より吸収され、光合成を阻害して白化を起し、殺草性をあらわす。地中で発芽した雑草の根より吸収されるときは、芽が地上へ出てから効果があらわれ、すでに発芽したものでは、葉の先端や緑の部分より枯れてくる。老化した植物体内の移行は少ないので、莖葉処理には展着剤を加用すると効果が高まる。

セリ科に選択性がありニンジン、ミツバ、セルリーに対し安全に使用できる。水に対する溶解度が小さく、土壤中の移動は極めて小さい。残効性は30～60日位で長い。

対象作物：ニンジン・タマネギ(本畑)・パセリ・アスパラガス・水稻・陸稻・ムギ類・豆類・ラッカセイ・トウモロコシ・バレイショ・カンショ・ハッカ・桑・ミツバ・セルリー。

毒性は、急性経口毒性LD₅₀:4,000 mg/Kg(マウス)でほとんど無害である。

使用方法：は種後土壌処理には、10アール当り製品100～200gを水70～100ℓにとかして用いる。雑草莖葉処理は、発生後なるべく早く実施する方がよいが、400～600g

を100～150ℓの水にとかして用いれば草丈15～20cm位の雑草を殺すことができる。

使用上の注意としては、土壌処理の場合、土壌が乾き過ぎていると効果が落ちるので、湿った時に使うこと。ニンジンの発芽期から本葉1枚の出始めごろは、薬害がやすいので使用をさけること。トウモロコシ・タマネギ・桑の生育期の散布は、薬液が作物にかからぬようにすること。水田裏作タマネギには、8月以降の使用は薬害がやすいのでさけること。

A T P 液 剤

ダウ・ケミカル・インターナショナル・リミテッド

成分、作用特性：本剤は、有効成分4-アミノ-3,5,6-トリクロロピコリン酸のカリウム塩を24.9%含有する液剤である。

ATPはいわゆる植物ホルモン系除草剤と類似の作用特性、つまり広葉植物に作用が大きく、いね科植物には作用が小さい選択性を示す。

広葉植物に対する殺草作用は2,4-P Aや2,4,5-Tよりも強力で、特に木類や多年生広葉雑草の防除に有効である。移行型の作用をもつので、莖葉処理によって最も大きい効果が得られる。また、土壌中の移動性・残効期間ともに中程度であって、雑草木を生育期に土壌処理で防除する事もできる。

人畜魚類に対する毒性は、極めて少ない。

使用方法：芝生の生育期間の広葉雑草防除を対象として、実用化が認められた。使い方は、10アール当り製品80～160gを水100ℓにとかして散布する。その他、水稻刈取後処理による